

6. 研究の仮説と研究内容

【基本の仮説】

学級の実態に応じた明確な指導観に基づく授業づくりをすることで、ねらいに迫る授業展開ができ、豊かな心を育みたくましく生きる力の土台を築くことができるのではないだろうか。

【具体的な仮説と研究内容】

仮説1

導入において、学習テーマの設定を工夫し、考える内容を明らかにすることで、主体的に道徳的価値について向き合い考えを深めることができるであろう。

仮説2

展開において、児童の心を揺さぶる発問、ねらいに迫る発問など発問構成の工夫をすることで、自ら考えたいくなる主体的な学びとなり、自己を見つめ直すことができるであろう。

仮説3

終末や事後指導の充実を図ることで、道徳的価値を振り返りながら主体的に自己の生き方を考え、道徳の授業に参加する意欲が高まるであろう。

研究内容1

- 基本的な指導過程の徹底
- 導入の工夫
 - ・学習テーマの設定
 - ・問題意識をもたせる工夫

研究内容2

- 資料の分析、提示の工夫
- 授業展開の工夫
 - ・ねらいを意識した発問や問い返しの工夫
 - ・話し合い活動の工夫
 - ・書く活動の充実（ワークシートの工夫）
 - ・自己を見つめる場面の工夫

研究内容3

- 終末の工夫
- 事後指導の充実
 - ・励ましのコメント
 - ・道徳コーナーの設置

明確な指導観に基づく授業

【側面から支える手立て】

- ◎信頼関係を基盤とした学級経営（話し合う、聞き合う）
- ◎言語活動の充実
- ◎他教科・行事で行う道徳教育（別葉の見直し）
- ◎年間指導計画の見直し
- ◎道徳教育に関する情報の発信（学級通信、懇談等）